

# 学ぶ力向上に係る取組を振り返って

## ～教職員による評価より～

今年度の実践を振り返り、教職員による学校評価を行いました。その中で、「学ぶ力向上」に関わる項目に関する成果と課題について報告します。

項目「めあての提示、振り返りのある授業を実践し、子どもたちに学習の目的意識を持たせる授業展開を工夫する」においては、83%以上の教職員が「できた」と肯定的な回答をしました。

これは、授業の目的意識を高める取組が一定の成果を上げていることを示しています。

授業の最初に今日の学習の「めあて」を明確に伝え、子どもたちが学びの目的を意識できるようにし、また、授業の進行中にも、その目的にどれだけ近づいているかを確認することで、子どもたちが自分の学びを実感できるようになります。また、授業の終わりに「振り返り」の時間を設け、学んだことを整理し、次回の学びにどう繋げるかを考える機会をもつようにすることで、子どもたちは自分の成長を実感し、次に向けての目標を意識することができると考えます。来年度も、子どもたちの学びをより充実させるために、引き続きこの取組を進めてまいります。

また、項目「課題意識をもって研修会に参加したり、研究会で学んだことを日頃の自身の授業改善に生かしたりしながら授業力向上を図る」については、99%の教職員が「できた」と肯定的な回答をしました。これは、教職員全体が積極的に授業改善に取り組み、目標を達成しようとしている証です。教職員は課題意識をもって積極的に研修会や研究会等に参加し、他の学校の先生方と共に学びながら、授業力向上に向けて日々努力してまいりました。この成果は、子どもたちにとってより充実した学びを提供できる基盤となると考えます。「学び続ける教師」と言われているように、研修会や研究会等で得た知見や技術を日々の授業に生かし、より良い教育環境を提供できるよう取り組んでいきます。

一方、『『発見・蓄積』『分析・整理』『再構築』の場面を意識し、読み解く力の視点を踏まえた授業づくりをする』という項目において肯定的な回答をした教職員は64%と、低い傾向となりました。滋賀県では、児童が「読む」力を超えて、文章を「読み解く」力を養うことが重要視されています。この力は、ただ単に文字を読むだけではなく、内容を深く理解し、そこから自分の考えを引き出す力です。「読み解く力」を育むためには、教科書の内容だけでなく、生活に役立つ情報や時事問題を取り入れることも効果的です。これにより、児童たちが文章を通して社会と繋がり、自分の考えを表現する力を養えるのではないかと考えています。今後は授業の中で「発見・蓄積」「分析・整理」「再構築」の各段階を明確に意識し、児童がより主体的に学びを深められるような活動を増やしていきます。

## PTAおよび後援会解散に当たって（寄付物品へのお礼と来年度の対応について）

PTAおよび後援会が今年度末をもって解散することは、周知の事実です。解散に当たって、PTA会計および後援会会計より、以下の寄付物品の贈呈準備をしていただいています。子どもたちの学校生活充実のため、大切にに使わせていただきます。ありがとうございます。また、これまでのPTA活動にも心から感謝の意を表したいと思えます。ありがとうございました。

PTAや後援会が無くなることで、来年度からの学校教育活動にどのような影響が出るかは、未知の部分ではありますが、極力、支障が出ないように創意工夫をしていきたいと思えます。その中の一つとして、学校生活の中に保護者ボランティアを取り入れていきたいと考えています。子どもたちの学校生活の支えとして、ご協力をお願いします。

### 寄付予定物品

- ・レッドカーペット・式用装飾フラワー（造花）・電子ホイッスル
- ・ほうき用毛ぐし・掃除機・植栽剪定用鋏・鋸・デジタルカメラ

